

学校教育目標	自他を尊重し、主体的に学び続ける子どもの育成		
--------	------------------------	--	--

a ミッション	組織的な学校経営を生かした小中連携教育による主体性・表現力の育成	a ビジョン	(1) 自他を尊重し、これからの社会をよりよく生きるための能力を身に付けさせる。 (2) 保護者・地域から信頼される学校になる。 (3) 教職員の総力を挙げた組織的で機能的な教育活動の推進を図る。
---------	----------------------------------	--------	--

尾道市立北小学校

評価計画				自己評価				学校関係者評価			改善計画			
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
				g 達成率	g 達成率	h 達成度	i 評価	イ		ロ	ハ			
【主体性】 主体的に 学び続ける 児童を育てる。	課題意識を持ち、自ら課題を解決しようと粘り強く取り組もうとする姿。 自分たちで、学校や社会を充実（楽しく）させるために行動する姿。	一人一人の学力実態を把握し、課題を整理し、克服するための具体的支援を行う。 児童主体で「3つの宝」を向上できるような取組や場の設定を行う。 学習や経験を活かす行事や特別活動等において児童が課題意識を持ち、自ら考え、行動できるような場の設定、指導をする。	正答率80%を超える児童の割合 正答率70%を下回る児童の割合10%以下	85%	86%	101	A	2つの指標について、達成することができた。習熟度別学習と個別指導の充実を図ったこと、毎月学力状況について調査し、交流し、改善点を考えたことで成果につながった。 学習内容によって児童の理解や定着に差があることや、学期末テストのように、さまざまな内容が混ざったテストでは、正答率が低くなるといった課題が見られた。	○			一人一人の課題があるから全体値が上がらないと言うのではなく、方策にあるように、一人一人の実態に合わせ、克服する取組を進めてほしい。	理解や定着の低かった内容の補充と共に、その内容の土台となる計算力などを育てる。 さまざまな内容が混ざった問題を使って理解や定着を促す。 自分で調べ、問題を解いたり解決したりする学習の場を増やす。	
			「3つの宝」をよりよくしようとしている児童の肯定的評価	90%	89%	98	B	目標値に近い結果となった。 年度初めに比べ、気持ちのよいあいさつが増えてきた。学級の靴箱の靴やシューズが揃ってきている。また、トイレのスリッパが揃い始めてきた。	○			気持ちの良いあいさつができるようになってきている。 学校外でもあいさつができるのもっと良いと思います。あいさつが返ってこないときがあるのが残念です。	3つの宝委員会や児童会を主体に、無言掃除やきものそろえの取組を実施していく。 2学期からは縦割り班掃除が始まる。縦の関係性によるよりよい掃除を目指していく。	
			行事に向けて、個々の児童が学年の実態に合った目標を設定して取り組むことができる児童の割合	80%	100%	125	A	100%達成することができた。 運動会では、児童が自ら目標をもって競技や演技に向けて主体的に取り組むことができた。練習を行う中で、自分の目標を見直したり、目標達成のために自分の練習の仕方等を工夫したりすることができた。	○			行事を行う際、個人で目標をもたせ、目標達成への努力を評価し、次へとつないでほしい。 大きな行事は、個や集団を高めるのだと、コロナ禍の中、少しずつできるようになった学校行事をうれしく思います。 地域、人材を活用することで、地域に生きる子供達になっていくことを期待します。 タブレットを使って自分の動きを客観的に見られるのは良いです。もっともっと有効活用してください。	自分の課題に合った適切な目標を立てたり、自分の課題を見付けたりできるように、自分を振り返ったり客観的に見つめ直したりすることができる手立てを行う。 教師が適切に児童の姿を見取り、適切な評価を行ったり、フィードバックしたりすることや、ICTを活用して自分の動きの映像を見ていいところを見つけたり、課題を分析したりする。	
【表現力】 自他を尊重し、よりよいものを求め表現する児童を育てる。	自分の考えを持ち、自分の意志でよりよい判断をする姿。 相手意識を持ち、場に応じた表現、根拠を基にした説得力のある表現、感謝の気持ちを表現する姿。	「かかわる」「表す」「見つめ直す」授業づくりを進め、道徳教育を充実させる。 「3つの宝」の実践している姿やその価値に気付かせ、意味をもって「3つの宝」を行えるような取組や声かけを行う。 表現の目指す姿を共有し、組織的で統一した指導を徹底する。	道徳アンケートにおける肯定的評価	85%	81%	95	B	取組の充実を図ったが、現段階では十分な達成につながらなかった。 問題や対象とのかわり方を工夫して、児童の主体性や問題意識を引き出せるようにすること、自分の思いや考えを文章で書き表したり、色や数値・身体表現などに表したりするなど、自己表現の場を設定した。また、互いの考えを交流して学びを深めたり、自らを見つめ直したりする場を設けた。	○			高学年になるほど達成率が下がる理由を分析してもらいたいです。	児童の自己肯定感を育てるように肯定的なフィードバックを積極的に行う。 各学年のめやすとなる書き方や表現の仕方を、学年を超えて連携し設定する。 モデルとなる書き方から始め、徐々に自分なりの表現につながるように個別指導する。	
			「3つの宝」のよさを説明することができる児童の割合	90%	83%	92	B	全体の意識は高まってきている。 あいさつ運動へ参加する児童が増加しつつある。 トイレのスリッパが揃っていない時に、揃えてくれている児童の姿を見かけることが多くなった。 高学年では見付け掃除、中学年では時間いっぱいまで掃除、低学年では正しい掃除を行うことができるようになってきている。	○			長年の取組の成果ができてきている。 因北小で継続して取り組まれている「3つの宝」です。良さが、人にも自分にも気持ちの良いということにつながるよう進めていってほしいと思います。	価値づける掲示を今後も行っていく。 高学年から中学年、低学年へも自分にも気持ちの良いということにつながるよう進めていってほしいと思います。	
			評価問題の通過率	70%	66%	94	B	十分な結果、姿となっていない。 表現の目指す姿をより具体的に共有する必要がある。学校によって指導に差があるので、そこを理めていく必要がある。	○			十分な結果が表れなかった原因について分析し、次へつなげていく必要がある。 自分を表現できる、安心して通える学校、クラス、友達、先生との関係が大切だと思います。豊かに自己表現できるよう、応援したいと思います。	表現の目指す姿を再度確認し、各学年で統一した指導を行う。 授業において、かわりを大切に、表現させることを意識した授業展開をつくる。 行事等において、自己表現できる場をつくることともに、充実を図る。	

【自己評価 評価】
A：100≦（目標達成）
C：60≦（もう少し）<80

B：80≦（ほぼ達成）<100
D：（できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。